

眼科医連盟ニュース

発行：日本眼科医連盟 〒108-0075 東京都港区港南 2-16-4
品川グランドセントラルタワー 8 階
TEL：03-6712-9652 FAX：03-6712-9653

2023 年 10 月 20 日

第 36 号

日本眼科医連盟の皆様方におかれましては、新型コロナウイルス感染症の流行下における患者への診療体制の維持・確保をはじめとして、地域医療の推進に多大なる御尽力をいただいていることに心より感謝申し上げます。また、白根雅子執行委員長はじめ、会員の皆様方には、昭和 60 年の設立以来、国民の眼を守るための活動に御尽力いただいております。その活動に敬意を表します。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類の誰もが願う長寿社会を現実のものとなりました。人生 100 年時代を見据える中、乳幼児から御高齢の方まであらゆる年代において、眼科医の果たす役割はますます高まってまいります。こうした中、貴連盟におかれては、乳幼児期からの弱視の発見と治療にはじまり、壮年期以降の白内障、緑内障等の治療、視覚障害のある方々への支援など、様々な活動に注力されていること、大変心強く思います。

政府としても、乳幼児健診における視覚検査のための屈折検査機器の購入補助や視覚障害のある方々への情報支援や意思疎通支援、緑内障における新たな手術の診療報酬での評価など、様々な施策に取り組んでおります。最近では、多くの国民の皆様が悩んでいる花粉症について、本年 5 月に花粉症対策の全体像をとりまとめました。眼のアレルギー疾患も含め、花粉症対策などアレルギー疾患対策に取り組んでまいります。来年 4 月には、医師の働き方改革関連法が施行されます。円滑な施行に向けて、引き続き、医療関係者の皆様方と連携しながら丁寧な対応を進めてまいります。

今後とも、こうした必要な施策に真摯に取り組み、眼科医の皆様方を支援してまいりたいと考えております。最後になりますが、日本眼科医連盟の会員の皆様方の益々のご活躍を心より祈念申し上げます。



内閣総理大臣

岸田 文雄

国民の目を守るため、私達の声を国政に届けましょう

執行委員長 白根雅子



本連盟は、制度的、社会的な課題を乗り越えて、国民に最適な眼科医療を提供する道筋を開くための組織です。

私達は、国民の目を守るために、日々研鑽を積み診療に従事していますが、時に様々な壁に突き当たって、忸怩たる思いに悩むことがあります。眼科には、コンタクトレンズ、メガネ、視覚障害対策といった分野や、手術件数が極めて多い診療科としての特有の医療費の課題があり、常に独自の対策が求められています。

本連盟では、眼科に造詣の深い国会議員の方々、支援議員として、私達の声を国政に届けてくださっています。「自由民主党眼科医療推進議員連盟」では、定期的に会議の場を設け、私達を担当省庁につないでくださいます。昨年度も様々な案件が前に進みました。今回、この議員連盟に加入して下さっている 91 名の国会議員のリストを掲載しています。各地で眼科に関心を寄せてくださる国会議員とコミュニケーションをとっていただければ、地域単位の施策である、眼科検診、3 歳児健診、視覚障害者の日常生活用具の給付といった課題も、よりよい方向に進むことでしょう。

数は力です。眼科は医師の 4% しかいないマイナー集団です。ひとりでも多くの眼科医に加入していただき、全国の眼科医が一丸となって、眼科に関心を寄せてくださる国会議員の先生方を応援し、邁進したいと切に願っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

「こどもの目の日」制定記念式典 岸田総理ビデオメッセージ

内閣総理大臣の岸田文雄です。

「こどもの目の日」制定記念式典の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

公益社団法人日本眼科医会におかれましては、昭和5年の創立以来、90年以上の長きにわたり、眼科医療に関する研究や公衆衛生活動に御尽力いただいております。その献身的な御努力に心から感謝と深い敬意を表します。

我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成しましたが、人生100年時代の到来を見据えて、視力の発達する乳幼児期から、健全な視力を保つ重要性はますます高まっており、政府としても、3歳児健診における新たな検査の導入支援など、引き続き、子供たちの視力を守る取組を進めてまいります。

先月1日、日本の省庁の歴史で初めて「こども」を名称に冠する、「こども家庭庁」が発足しました。

貴会では、「こども家庭庁」の創設に当たり、6歳で視力1.0という願いを込めて、6月10日を「こどもの目の日」記念日として制定されたと伺っています。将来ある子供たちのために積極的な取組を進められていることを大変心強く思うとともに、引き続き、こうした取組を通じて、国民の保健と福祉の向上に貢献されることを期待しております。

最後に、貴会のますますの御発展と、本日御参集の皆様の御健勝と御活躍を心から祈念して、私のお祝いのメッセージといたします。



首相官邸ホームページ



日本眼科医会 理事 近藤永子

今年4月こども家庭庁が創設されたのをきっかけに、日本眼科啓発会議では広く社会に子どもの目の発達や健康に関心を持っていただくよう6月10日を「こどもの目の日」として記念日登録しました。これには「6歳までに弱視を治療して視力1.0を獲得」し、「6歳からも目を大切に視力1.0を維持」していくという願いが込められています。日本眼科医会は5月28日（日）東京都千代田区にあるイイノホールにて「こどもの目の日」制定記念式典を行い、岸田文雄首相から前述のように直々にビデオメッセージをいただきました。またご来賓として、日頃から眼科医療の活動をご支援いただいている衆議院議員井上信治先生、参議院議員羽生田俊先生、参議院議員自見はなこ先生にご公務でお忙し

い中で出席いただき、田村憲久衆議院議員、国光あやの衆議院議員からは祝電を頂戴しました。また小児科専門医である自見先生には「こどもの Well-Being と目の健康～こども家庭庁の施策を中心に～」というタイトルでご講演いただきました。支援議員の先生方には、眼科医療推進のため常日頃よりお力添えいただき、この場を借りお礼申し上げます。



前厚生労働副大臣

参議院議員

眼科医療政策推進議員連盟幹事 **羽生田俊**

平素より私の政治活動にご理解とご支援を頂いておりますこと心より御礼を申し上げます。

昨年8月に厚生労働副大臣を拝命しはや1年が経過しようとしております。



こどもの目の日

副大臣の間そしてまたこの参議院議員としての10年間の間、日本眼科医会の白根会長また高野前会長には並々ならぬお支えと意見交換を重ねて参りました。ビジョンバンの活動の時分から、こどもの目の日制定、つい先般は視覚障害者用拡大読書器に関する要望など多岐にわたる眼科医会の活動について、私も医師として、また眼科医として共に取り組んで参りました。今後とも視覚というQOLに大きく関わる健康管理そして疾患と向き合う活動が国民にとってより良きものとなるよう努めて参ります。



要望活動



こども家庭庁に関して

内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策 消費者及び食品安全 地方創生 アイヌ施策）
国際博覧会担当
参議院議員

眼科医療政策推進議員連盟事務局次長 **自見はなこ**

白根雅子委員長はじめ、日本眼科医連盟の先生方におかれましては、平素より多大なご理解を賜り誠に有難うございます。

先生方の熱烈なご支援のもとで昨年7月の参議院選挙で2期目の当選をさせていただき、昨年8月にはこども家庭庁を所管する内閣府大臣政務官を拝命し、単独の省庁として初の予算編成や本年4月の立ち上げ、その後の事業展開などこども子育て政策の充実に向けて取り組んでおります。

こども家庭庁を巡っては、2018年の議員立法で成立した成育基本法が創設の大本です。日本眼科医連盟の先生方には、成育基本法成立に向けて取り組んでいた当時から多大なご尽力を頂き、成立後は2021年2月に閣議決定された成育医療等基本方針の中に「乳幼児期の視覚異常の早期発見・支援に向けた体制整備」が明記され、2022年4月から自治体の屈折検査機器導入への補助が実現しました。こども家庭庁創設によってこうした流れをさらに強く加速していけるよう引き続き取り組んで参る所存です。

こども達の眼の健康の課題として、斜視・弱視などの早期発見に加え、スマートフォンの普及や学校教育へのタブレット導入などIT化により近視やドライアイの増加も懸念されるほか、外遊びをする子ほど近視の発症率が低いことが指摘されるなど、日常生活のあり方等も含め、今後の政策決定において眼科医の先生方のご指導を仰ぐ機会がますます増えることと存じます。

さらに本年は、「はぐくもう！6歳で視力1.0」を合い言葉として6月10日が「こどもの目の日」として制定され、記念式典にお招きいただきました。こどもたちのWell-Beingと目の健康の普及啓発強化について国としてもしっかり取り組んでいかなければならないと決意を新たに致しました。

こども達の眼の健康について国、そしてこども家庭庁が果たすべき役割は数多くありますが、医療現場の代表として国会に送っていただいた責任を胸に、これからも精進して参ります。日本眼科医連盟の先生方におかれましては、より一層のご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

眼科医療政策推進議員連盟総会について

副執行委員長 前田利根

田村憲久、井上信治、金子恭之衆議院議員のご尽力により 2022 年 11 月 24 日（木曜日）午後 3 時から衆議院第二議員会館で、第 10 回自由民主党眼科医療政策推進議員連盟総会が開催されました。開催日程はいつものように直前に決まるという慌ただしい中、当日は 24 名の国会議員の先生方（+秘書さんだけのご参加 19 名）と昨年より多くのご参加をいただき、厚生労働省からは 6 名のご出席を賜りました（表 1）。当日の眼科側の参加者は表 2 のごとくでした。井上信治議連事務局長の司会で開始され、田村憲久議連会長のご挨拶の後、白根日本眼科医会会長からは眼底検査の重要性とともに、特定検診における眼底検査の重要度が低すぎる問題が報告されました。大鹿日本眼科学会理事長からは、眼科領域における AI 技術の臨床応用にむけて PMDA との交渉の難しさ、遅々として審査が進まない現状が報告されました。最後に、小沢日本眼科医会副会長から白内障手術における短期滞在手術基本料 3 の抱える問題点が報告されました。当日厚労省からはいくつか口頭でお答えをいただき、総会は 1 時間弱で終了しました。

表 1

厚生労働省
健康局
佐々木孝治 健康課長
大臣官房 厚生科学課
高江慎一 研究企画官
医薬・生活衛生局
医療機器審査管理課
飯島 稔 プログラム医療機器審査管理室長
労働基準局
安全衛生部 労働衛生課
中村宇一 産業保健支援室長
保健局 医療課
荻原和宏 保健医療企画調査室長
保健局 医療介護連携政策課
堤 雅宣 医療費適正化対策推進室長

表 2

日本眼科学会	大鹿哲郎	理事長
日本眼科医会	白根雅子	会 長
	前田利根	副会長
	小沢忠彦	副会長
	井上賢治	常任理事
	加藤圭一	常任理事
日本視能訓練士協会	南雲 幹	会長
日本眼科医療機器協会	小澤素生	会長
日本コンタクトレンズ協会	浦壁昌広	会長



「こどもの目を守る連盟活動」

～自由民主党「こども・若者」輝く未来実現会議
第 20 回超党派「成育基本法推進議員連盟」総会に出席して～

日本眼科医会 常任理事 柏井真理子

超党派による「成育基本法推進議員連盟」により成育基本法が立法化され、こども家庭庁が創設、岸田文雄総理大臣も「異次元の少子化対策」を表明するなど、こども政策の充実に向けて政府が大きく舵を切られました。政府が個別の施策の充実に向け検討されている中、日本眼科医連盟はこども政策に関する要望を上程しました。

そして 2023 年 2 月 13 日には自民党本部で開催されました自由民主党「こども・若者」輝く未来実現会議にて柏井が「こどもの目の健康」について橋本岳議員をはじめとする多くの自民党国会議員や各省庁担当者に対し、乳児への視覚スクリーニング実施や、3 歳児眼科健診での屈折検査の普及などを要望しました。

また 5 月 17 日開催の第 20 回超党派「成育基本法推進議員連盟」総会に白根雅子会長、近藤永子理事、そして私がオンラインで参加し、そこで白根会長は、具体的にこ

ども家庭庁での施策に、ぜひ「子どもたちの目を守るための施策」そして「誰一人取り残されない支援」を説得力のあるスライドを用い、端的に説明し理解を得ました。特に乳幼児時期が視覚の発達に重要な時期であり、適切なスクリーニングが必要であること、3 歳児健診における視覚検査の精度向上、未就学児の近視予防啓発、学童の近視進行予防などを説明、さらに「こどもの目の日」を制定し、社会での「こどもの目の啓発」を推進する姿勢を力強く示しました。会議には内閣府から内閣府大臣政務官として自見はなこ先生がご出席、その他こども家庭庁、厚生労働省、文部科学省担当者等も一同に会しての有意義な会でした。

支援議員の先生方には眼科医療推進のためいつも力強くお力添えいただいております。この場を借りてお礼申し上げます。

衆議院議員
眼科医療政策推進議員連盟会長
田村憲久



日本眼科医連盟の皆様におかれましては、ご指導・ご鞭撻を賜り御礼申し上げます。

さて、2020年から始まった新型コロナウイルスのパンデミックにおいて、私もコロナ禍での厚生労働大臣の際には、新型コロナウイルス感染症対策に懸命に取り組みましたが、皆様にもご理解・ご協力頂き、心より感謝申し上げます。今年5月より、新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが2類から5類に移行し、少しずつではありますが、国民の生活が感染前に戻りつつあります。現在は、自由民主党の社会保障制度調査会長として、持続可能な社会保障制度を構築するため、医療提供体制の整備や、医師の働き方改革等、皆様の職場環境の

向上にも注力させて頂いております。

今年4月には、こども家庭庁が発足し、政府の経済財政運営と改革の基本方針2023(骨太の方針)に、公教育における視力低下に歯止めをかける対策の強化が掲げられたことから、子ども達の視力の維持に向けた取り組みが一層進展するよう期待しております。

また昨年には、障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法が施行され、視覚障害者を含むすべての障害者の情報の取得利用・意思疎通に係る施策の推進が基本理念として明記されました。健常者と視覚障害者が共生できる社会の実現に向けて一層の努力をしてまいります。

今後も自由民主党眼科医療政策推進議員連盟の会長として、皆様のご意見に耳を傾け、ご要望に真摯に取り組んでまいります。

最後になりますが、日本眼科医連盟の皆様の益々のご活躍を心より祈念致します。

眼科医療政策推進議員連盟の
同志と共に

衆議院議員
眼科医療政策推進議員連盟事務局長
日本眼科医連盟参与 井上信治



衆議院議員の井上信治です。私は、両親・兄弟全員が眼科医という一家に育ちました。私は政治家となりましたが、初当選以来20年、眼科医の先生方に最も身近な議員として、国政から眼科医療に貢献したいと考えてきました。

2015年3月、田村憲久元厚生労働大臣を会長に、私が事務局長となって、念願であった「眼科医療政策推進議員連盟」を設立することができました。以来、約100名の自民党の国会議員と共に活発な活動を続け、眼科医の先生方と緊密に連携し、多くの実績も挙げる事ができました。3歳児健診等を含む幅広い分野での眼科検診の普及・充実、白内障再建術の適正評価、コンタクトレンズの適正使用に向けた啓発や「眼鏡作製技能士」資格の適正化など、いずれも国民のQOLの向上や、我が国の保健・福祉の発展に欠かせないものです。ま

た、ビジョンバンを活用して自民党本部で行った眼科検診体験会などにより、多くの国会議員が目の健康の大切さを実感してくれるようになりました。

議員連盟はもちろん、日本眼科医会の代議員会、ブロック訪問など、様々な機会に皆さまと意見交換させて頂くことを私もいつも楽しみにしています。引き続き、議員連盟の同志と共に公的眼科検診制度の創設等も目指して頑張ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。



前総務大臣
衆議院議員
眼科医療政策推進議員連盟幹事長
金子恭之



平素より日本眼科医連盟の皆さまには、力強いご支援を賜っており、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症の流行下においても診療体制の維持・確保をしていただき、地域の医療体制を確立いただいたこと、心より感謝申し上げます。

最近の医療に関するトピックスといえば、まずは、新型コロナウイルス感染症に関しては、本年5月から感染症法上の位置付けが5類に移行となり、幅広い医療機関による自律的な通常の対応に移行していくこととなります。また、今年度は同時改定の年にあたりますが、令和6年度診療報酬改定に向けては、昨今の物価高騰や賃金上昇、経営状況、人材確保の必要性、患者負担等の影響も踏まえながら対応していくこととなります。そして、来年4月からは医師の働き方改革関連法の施行

を迎えます。

こうした医療全体の動きの中で、眼科分野においても対応が求められてまいりますし、また、個々の診療の局面においても、人生100年時代を見据える中、乳幼児期からはじまりあらゆる年代において眼科医の果たす役割はますます高まってまいります。

この点、日本眼科医連盟の皆様におかれては、まさに「人生100年時代の国民の目をsustainableに守る」という目標のもと、様々な活動が行われております。

政府の方でも、乳幼児健診での対応、視覚障害のある方への情報取得支援、緑内障対策、花粉症等アレルギー疾患対策、など、貴連盟同様、あらゆる年代において、様々な取組が進められております。

私も、自由民主党眼科医療政策推進議員連盟の幹事長として、皆様の活動と呼応する形で、今後とも更に活動を活発化させ、日本の医療、とりわけ、眼科医療に関する施策に真摯に取り組み、眼科医の先生方を支援していきたいと考えております。

結びに、日本眼科医連盟の益々のご発展と会員の皆様方のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

前総務大臣政務官
衆議院議員
眼科医療政策推進議員連盟事務局次長
日本眼科医連盟参与
国光あやの



平素より白根執行委員長はじめ日本眼科医連盟の皆さまには、力強いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。厚労省で医療政策に携わった経験も活かし、これまでも多焦点眼内レンズや技術料の評価向上などに取り組んで参りました。令和6年の診療報酬改定に向けても、足元の厳しいコスト高騰の状況を踏まえ、改定率・個別項目に政治からしっかりと対応して参ります。

昨年8月に総務大臣政務官を拝命し、情報通信、放送、郵政、総務省全体の政策をわかりやすく伝える広報改革など、国民生活に広く関わりその生活を豊かにする総務省の仕事に全力で取り組んでまいりました。

総務省では、医師の偏在対策の有力な解決策と期待される遠隔医療の普及・発展に向けて、事例集の策定や研究開発・実証等を通じて、その導入を支援しています。

例えば、平成23年3月には、各地域で遠隔医療の導入を進めていく際の事前検討の手順や考え方、導入事例等を取りまとめた「遠隔医療モデル参考書」を公表、医療機関等でご利用いただいています。この参考書は、遠隔医療を取り巻く環境の変化等に応じて節目で改定し

ており、今年度は、電子処方箋やオンライン服薬指導、急性期・初診からのオンライン診療など、コロナ禍以降の制度変更等に対応した遠隔医療の新たな利用形態を反映するためのアップデートを予定しています。

また、令和元年度頃からは、日本医療研究開発機構（AMED）を通じた研究事業として、8K内視鏡システムの遠隔手術支援への適用や、遠隔手術支援ロボットの実証等に取り組んでおり、こうした取組を通じ、日本外科学会による遠隔手術ガイドラインの策定も支援しています。

近年、眼科領域においても、オンライン診療や遠隔コンサルテーション等の導入事例が増えており、遠隔医療の導入にあたっては、高精細映像をリアルタイムでやりとりできる大容量の通信インフラが求められます。遠隔医療の導入にあたって地域の通信環境を改善する必要がある場合には、ローカル5GやWi-Fiといった地域のデジタル基盤の整備を支援する事業も令和6年度予算要求に盛り込んでいますので、ぜひご活用をご検討ください。

今後とも、関係者の皆様のご意見を丁寧に伺いながら、遠隔医療の普及等を通じて医療DXに貢献してまいります。

今後とも、山積する課題に全力で取り組んで参りますので引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、日本眼科医連盟の会員の皆様方の益々のご活躍を心より祈念いたします。

前財務副大臣

参議院議員 秋野公造



高野 繁（前）会長、白根雅子会長始め先生方には日頃のご指導に心より感謝申し上げます。先生方に賜ったご指導を振り返ると、

① カラーコンタクトを用いて失明に至った事例についてご指導を仰いで 2012 年 6 月 19 日の参院厚労委にて質疑。厚労省は「販売業者に対して適切な情報提供の徹底を指導する」と答弁して、医薬食品局長通知を発出。医療機関の受診確認を徹底し、受療機関の名称を保存することとなりました。今なお「あれ、秋野さんがやってくれたんだよね～」と仰る先生方の真心に感謝しています。



② 多焦点眼内レンズの導入後に単焦点眼内レンズに戻したいとお声についてご指導を仰ぎました。当時、先進医療から保険適用に向けて、適応を慎重

に丁寧に定めようとした先生方の真摯な姿勢に襟を正す思いがしました。厚労省との協議の窓口となり、5度の延長を経て、選定療養に決着した道程は私にとって原点の一つです。

今は、眼底検診の重要性について白根会長にご指導を仰いでいます。また私の後援会長を務めて下さった（故）出口喜男先生はアイバンクを強力に推進されました。角膜移植の推進にも力を尽くす所存です。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。



参議院議員 桜井 充



日本眼科医連盟の先生方には、日ごろから応援いただいていることに厚く御礼申し上げます。特に、昨年行われた参議院選挙において、5期目の当選を果たすことができました。2月8日の本会議では、勤続25年の永年勤続表彰を受けることができたのは、先生方の応援のお陰です。改めて御礼申し上げます。

さて、人生百年時代を迎えて、眼科の疾患も白内障や緑内障だけではなく、加齢による疾患が増えています。失明の恐れのある加齢黄斑変性だけではなく、黄斑上膜や飛蚊症等様々な疾患があります。目からの情報が入りなくなると認知症になるリスクも増えてくるので、先生方の日常の診療の重要性は増えています。

また、子供たちの健診も非常に重要で、これまでの3歳児健診では、弱視の子供の診断がつきにくく、そのために弱視の治療ができない子供さんたちもいました。地

元の眼科医会の副会長である加藤先生から、簡便な屈折・眼位スクリーニング機器があることを教えていただき、3歳児健診に用いることが可能となるように努めてまいりました。その結果、多くの地域でこの機器が用いられるようになりました。弱視は6歳から8歳児ぐらゐまで治療が可能であり、少しでも弱視の子供さんを減らすことができたことは、同じ医療人として嬉しく思っています。

来年は診療報酬改定の年になります。物価も上昇し、政府からは賃金の引き上げが求められています。医療機関にとって、収入が増えるかどうかは診療報酬にかかっており、十分な賃金の引き上げが可能となるよう努めていきたいと思っています。

最後になりますが、私も高齢者になり老眼が進んでおり、暗い場所では小さな文字が見えにくくなってきました。それでも年齢の割には良く見えているよと皆さんには言われています。自分自身も目の健康に留意し、今後の人生を楽しく有意義に過ごしていきたいと考えています。眼科医会の先生方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



参議院議員 松川るい

白根雅子委員長をはじめ、日本眼科医連盟の皆さまには平素より格別のご高配を賜り心から感謝申し上げます。

私は、父が京都で耳鼻科の開業医をしており、その影響で高校時代は医学部を目指していました。

ですが、大学1年生の時にベルリンの壁が崩壊、ダイナミックに変化する国際政治に魅入られた私は一念発起して文転し法学部に進学、外交官の道を歩みましたが、私と同じく父の背中を追った妹は、初志を貫いて京都で眼科を開業、今も皆さまのお仲間に加えていただき大変お世話になっているところです。

人間の五感による知覚の割合は、視覚が83%、聴覚11%、嗅覚3.5%、触覚1.5%、味覚1%だそうです。受け取る情報の実に8割が目からの情報であり、目の働きは大型コンピューターの数百万ビットにも値するともいわれています。

人生100年時代を迎えるにあたり、生涯において大

切な目の健康を守るために、例えば学童期には近視の進行、中高年には生活習慣に関連した目の病気の増加など、ライフステージに対応した最善の眼科医療を提供していただいている皆さまに心から敬意を表します。

今、まさに歴史の転換期にあり、世界は、ロシアによるウクライナ侵攻など、力による一方的な現状変更を目の当たりにし、「自分の国は自分で守る」との機運が醸成されています。

そこで、同僚議員と「次世代の防衛産業の構築と海外装備移転を抜本的に促進する会」を立ち上げ、事務局長に就任しました。

関係省庁・有識者・業界団体など何度も意見交換や視察を行い、6月には岸田総理へ「装備移転三原則・運用指針の改訂に関する提言」を手交いたしました。これからは防衛装備品の移転を通じて、友好国との防衛協力を深化させ、インド太平洋地域の平和の維持に努めて参ります。

これからも《自分の国は自分で守る、自分の足で立つ日本》を創るため、粉骨砕身努力して参ります。

今後とも、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

日本眼科医連盟 支援議員 閣僚一覧

第2次岸田第2次改造内閣

令和5年9月13日発足 令和5年9月13日現在

職 名	氏名（敬称略）
内閣総理大臣	岸田文雄
厚生労働大臣	武見敬三

職 名	氏名（敬称略）
内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策 消費者及び食品安全 地方創生 アイヌ施策） 国際博覧会担当	自見はなこ
文部科学副大臣	今枝宗一郎

支 援 議 員

令和5年9月13日現在

組織内候補 参議院

1	羽生田たかし	自由民主党	比例令和1年	当選2回
---	--------	-------	--------	------

組織外候補 衆議院

1	岸田文雄	自由民主党	広島1区	当選10回
2	田村憲久	自由民主党	三重1区	当選9回
3	金子恭之	自由民主党	熊本4区	当選8回
4	井上信治	自由民主党	東京25区	当選7回
5	林 芳正	自由民主党	山口3区	当選6回
6	赤沢亮正	自由民主党	鳥取2区	当選6回
7	寺田 稔	自由民主党	広島5区	当選6回
8	橋本 岳	自由民主党	岡山4区	当選5回
9	今枝宗一郎	自由民主党	愛知14区	当選4回

10	鬼木 誠	自由民主党	福岡2区	当選4回
11	宗清皇一	自由民主党	比例近畿	当選3回
12	国光あやの	自由民主党	茨城6区	当選2回
13	笠 浩史	立憲民主党	神奈川9区	当選7回

組織外候補 参議院

1	武見敬三	自由民主党	東京令和1年	当選5回
2	桜井 充	自由民主党	宮城令和4年	当選5回
3	古川俊治	自由民主党	埼玉令和1年	当選3回
4	自見はなこ	自由民主党	比例令和4年	当選2回
5	滝波宏文	自由民主党	福井令和1年	当選2回
6	松川るい	自由民主党	大阪令和4年	当選2回
7	秋野公造	公明党	福岡令和4年	当選3回

令和4年度会計報告

会計責任者 今本 量久

令和4年度の日本眼科医連盟の会計報告をさせていただきます。

収入は、会員3,258人分会費28,235,000円、寄付200,000円の合計28,435,000円と、前年繰越金60,819,126円を加え、収入総額89,254,126円となりました。

支出は、備品・消耗品費、事務所費を合わせた経常経費が4,756,817円、組織活動費、選挙関係費、機関紙誌の発行その他の事業費、調査研究費、寄附・交付金を合わせた政治活動費が39,554,159円、支出総額44,310,976円となりました。

事務所移転に際し、日本眼科医会に業務委託したため、人件費、光熱水費が0円となっており、業務委託費、貸借料等を事務所費として計上しています。

令和4年度は参議院選挙があり、選挙関係費の支出もありましたが、政治活動費は前年度より減少し、支出の総額も減少となっています。

前年度より支出総額は減少しましたが、令和5年度への繰越額は44,943,150円と、今年度より更に減少しています。

近年、様々な国民の目を守る事業も大きく進んでいます。ただ、会員数は5年前に比して250名余り減少となっており、資産残高も減少しています。今後、より多くの眼科医に眼科医連盟の重要性をご理解いただき、会員となってご協力いただけるよう取り組んでいかなければなりません。会員の皆様には引き続きご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

令和4年度日本眼科医連盟
収支報告書
(自R4.1.1～至R4.12.31)

日本眼科医連盟 報告年月日 R5. 3. 16	
1 収入総額	89,254,126
前年繰越額	60,819,126
本年収入額	28,435,000
2 支出総額	44,310,976
翌年への繰越額	44,943,150
3 本年収入の内訳	
個人の党費・会費(3,258人)	28,235,000
寄附	200,000
個人分	(200,000)
その他の収入	0
団体	(0)
4 支出の内訳	
経常経費	4,756,817
人件費	0
光熱水費	0
備品・消耗品費	118,936
事務所費	4,637,881
政治活動費	39,554,159
組織活動費	5,147,251
選挙関係費	982,544
機関紙誌の発行その他の事業費	4,506,768
機関紙誌の発行事務費	(3,345,355)
宣伝事業費	(1,161,413)
調査研究費	433,596
寄附・交付金	28,484,000
5 寄附の内訳	
(個人分)	
年間百万円以下のもの	200,000



6年に一度、診療報酬、介護報酬、障害福祉サービス報酬のトリプル改定があります。日本眼科医連盟の政治力・行動力を、全力で応援いたします。

(北海道・笹本洋一)



物価高騰が続く昨今、従業員の暮らしを守るため、賃金上昇で応えてあげたい。そのためには診療報酬改定で大幅なアップが必要です。眼科医連盟に期待しております。

(宮城県・岡部 仁)



関プロ世話人の神奈川県眼科医会の宇津見義一です。日本眼科医連盟の業務は、行政、立法、司法に対してしっかりと調査を基に会員の要望を届け、それを実行することです。

(神奈川県・宇津見義一)



日眼と日眼医は眼科の両輪に例えられますが、安定して走り続けるには連盟という第三の車輪が必要不可欠であることを、多くの先生方に知って頂きたいと思います。

(東京都・福田敏雅)



眼科医連盟の役割は医政活動を通じ国民の目の健康と全眼科医及び従業員や家族の生活を守ることです。我々眼科医は全員が連盟に加入することで強力にバックアップすることが出来ます。

(岡山県・辻 俊彦)



6月の通常国会終盤に一時取り沙汰された衆議院の解散の風は今のところ止んでいるように見えますが、先日福岡県の支援議員の秘書さんから秋の解散総選挙の実施を“匂わす”支援要請を受けました。あくまでまだ“匂い”なのですが……。

(福岡県・吉富文昭)

『日本眼科医連盟メルマガジン』ご登録のお願い

日頃から本連盟をご支援して下さる皆様に、活動内容や業績をいち早くご報告するために、『連盟メルマガ』を配信しております。皆様のご登録をお待ちしております。

詳細はメルマガ登録フォームにアクセスしてください。



日本眼科医連盟会費がクレジットカード決済可能に！

日本眼科医連盟の会費が、連盟ホームページから、クレジットカード決済できるようになりました。Web経由で簡単に決済できますので、これを機にぜひご活用ください。

※これまで通り、預金口座からの引き落とし、郵便振替、銀行振込も可能です。

詳細はクレジットカード決済ページにアクセスしてください。



日本眼科医連盟 令和5年度役員

役職	氏名	役職	氏名
執行委員長	白根雅子	執行委員	加藤圭一
	前田利根	会計責任者	今本量久
副執行委員長	小沢忠彦	会計責任者	野下純世
	野中隆久	職務代行者	
執行委員	麻薙 薫	監事	濱崎 陸
	福下公子		山口達夫

ひとりでも多くの眼科医のご入会をお待ちしています！
ご入会はHP, FAX, ハガキにてお手続きいただけます。
詳しくは、【日本眼科医連盟】で検索してください。

日本眼科医連盟ホームページ



眼科医療政策推進議員連盟名簿

【議連名簿一覧】

令和5年9月13日現在 ※ブロック別

	氏名	役員	期数	勤続月数	選挙区	衆参	ブロック
1	武部 新		4	118	北海道 12	衆	北海道
2	船橋 利実		2	75	北海道・令和1年	参	
3	櫻井 充		5	294	宮城・令和4年	参	
4	秋葉 賢也		7	210	宮城 2	衆	
5	土井 亨		5	165	宮城 1	衆	東北ブロック
6	和田 政宗		2	111	宮城・令和1年	参	
7	遠藤 利明		9	311	山形 1	衆	
8	亀岡 偉民		5	165	比・東北	衆	
9	上杉 謙太郎		2	60	比・東北	衆	
10	国光 あやの	事務局次長	2	60	茨城 6	衆	
11	永岡 桂子		6	205	比・北関東	衆	
12	牧原 秀樹		4	165	比・北関東	衆	
13	櫻田 義孝		8	273	千葉 8	衆	
14	猪口 邦子		3	195	千葉・令和4年	参	
15	齋藤 健		5	158	千葉 7	衆	
16	松本 尚		1	11	千葉 13	衆	
17	古川 俊治		3	184	埼玉・令和1年	参	関東・甲信越ブロック
18	三ツ林 裕巳		4	118	埼玉 14	衆	
19	中野 英幸		1	11	埼玉 7	衆	
20	あかま 二郎		5	165	神奈川 14	衆	
21	牧島 かれん		4	118	神奈川 17	衆	
22	中谷 真一		4	118	山梨 1	衆	
23	堀内 詔子		4	118	山梨 2	衆	
24	後藤 茂之		7	228	長野 4	衆	
25	鷺尾 英一郎		6	205	新潟 2	衆	
26	高鳥 修一	幹事	5	165	新潟 6	衆	
27	細田 健一		4	118	新潟 2	衆	
28	斎藤 洋明		4	118	比・北陸信越	衆	
29	平沢 勝栄		9	313	東京 17	衆	
30	武見 敬三	顧問	5	265	東京・令和1年	参	
31	松島 みどり		7	228	東京 14	衆	
32	井上 信治	議連事務局次長	7	227	東京・令和1年	衆	
33	丸川 珠代	幹事	3	184	東京・令和1年	参	東京
34	木原 誠二		5	165	東京 20	衆	
35	柿沢 未途		5	158	東京 15	衆	
36	小倉 将信		4	118	東京 23	衆	
37	小田原 潔		4	118	東京 21	衆	
38	越智 隆雄		5	165	比・東京	衆	
39	山田 美樹		4	118	比・東京	衆	
40	塩谷 立	顧問	10	322	静岡 8	衆	
41	上川 陽子		7	228	静岡 1	衆	東海北陸ブロック
42	城内 実		6	180	静岡 7	衆	
43	宮澤 博行		4	118	静岡 3	衆	
44	今枝 宗一郎	事務局次長	4	118	愛知 14	衆	
45	工藤 彰三		4	118	愛知 4	衆	
46	長谷川 淳二		1	11	愛知 4	衆	

	氏名	役員	期数	勤続月数	選挙区	衆参	ブロック
47	滝波 宏文		2	111	福井・令和1年	参	東海北陸ブロック
48	田畑 裕明		4	118	富山 1	衆	
49	田村 憲久	議連会長	9	313	三重 1	衆	
50	鈴木 英敬		1	11	三重 4	衆	
51	池田 佳隆		4	118	比・東海	衆	
52	神田 憲次		4	118	比・東海	衆	
53	大岡 敏孝		4	118	滋賀 1	衆	
54	堀井 巖		2	111	奈良・令和1年	参	
55	佐藤 啓		2	75	奈良・令和4年	参	近畿ブロック
56	田中 英之		4	118	京都 4	衆	
57	勝目 康		1	11	京都・令和1年	参	
58	松川 るい		2	75	大阪・令和4年	参	
59	西村 康稔		7	227	兵庫 9	衆	
60	藤井 比早之		4	118	兵庫 4	衆	
61	加田 裕之		1	38	兵庫・令和1年	参	
62	奥野 信亮		6	187	比・近畿	衆	
63	谷川 とむ		3	94	比・近畿	衆	
64	逢沢 一郎		12	436	岡山 1	衆	
65	橋本 岳		5	165	岡山 4	衆	
66	寺田 稔		6	182	広島 5	衆	
67	平口 洋		5	165	広島 2	衆	中国四国ブロック
68	新谷 正義		4	118	広島 4	衆	
69	林 芳正	顧問	1	329	山口 3	衆	
70	高村 正大		2	60	山口 1	衆	
71	石破 茂		12	436	鳥取 1	衆	
72	赤澤 亮正	幹事	6	205	鳥取 2	衆	
73	舞立 昇治		2	111	鳥取・令和1年	参	
74	小島 敏文		4	118	比・中国	衆	
75	麻生 太郎		14	486	福岡 8	衆	
76	大家 敏志		3	148	福岡・令和4年	参	
77	鬼木 誠		4	118	福岡 2	衆	
78	古賀 篤		4	118	福岡 3	衆	
79	藤丸 敏		4	118	福岡 7	衆	九州ブロック
80	宮内 秀樹		4	118	福岡 4	衆	
81	福岡 資麿	事務局次長	3	195	佐賀・令和4年	参	
82	金子 恭之	幹事長	8	268	熊本 4	衆	
83	岩屋 毅		9	309	大分 3	衆	
84	松下 新平		4	221	宮崎・令和4年	参	
85	武井 俊輔		4	118	宮崎 1	衆	
86	尾辻 秀久	顧問	6	403	鹿児島・令和1年	参	
87	小里 泰弘		6	205	鹿児島 3	衆	
88	衛藤 晟一		3	331	比・令和1年	参	
89	石田 昌宏		2	111	比・令和1年	参	
90	羽生田 俊	幹事	2	111	比・令和1年	参	
91	自見 はなこ	事務局次長	2	75	比・令和4年	参	

【議連役員一覧】

令和5年9月13日現在

役職	氏名
顧問	尾辻 秀久
顧問	林 芳正
顧問	塩谷 立
顧問	武見 敬三

役職	氏名
会長	田村 憲久
幹事長	金子 恭之
幹事	羽生田 俊
幹事	赤澤 亮正

役職	氏名
幹事	高鳥 修一
幹事	丸川 珠代
事務局長	井上 信治
事務局次長	今枝 宗一郎

役職	氏名
事務局次長	福岡 資麿
事務局次長	自見 はなこ
事務局次長	国光 あやの